



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島第一原発からの放射能と向き合う－市民による放射能測定 (VIII) - 市民が作った『図説 17 都県放射能測定マップ+読み解き集』
Alternative_Title	Radioactivity measurement by the citizens (VIII) - to face the radioactivity from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant - "Illustration 17 prefectures radiation measurement map plus commentary" was made by citizens
Author(s)	大沼 章子(名古屋大学) Ohnuma, Shoko(Nagoya Univ.)
Citation	第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集, p.13 56th Annual Meeting on Radioisotope and Radiation Researches
Subject	セッション:東電福島第一原発事故関連 その他(1)
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/184137
Right	© 2019 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集」のデータであり、 発表内容に変更がある場合があります。



福島第一原発からの放射能と向き合う—市民による放射能測定 (VIII)

—市民が作った『図説 17 都県放射能測定マップ+読み解き集』—

Radioactivity Measurement by the Citizens (VIII) —to Face the Radioactivity from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant— “Illustration 17 prefectures radiation measurement map plus commentary” was made by citizens

名古屋大学大学院医学系研究科

○大沼章子
(OHNUMA, Shoko)

1. はじめに

福島第一原発事故から8年が経過した。現在も、燃料デブリ取り出しに向けては「まだまだ序盤戦で敵の姿も見えない」と、手探りの対応が続いている。放射性物質による食品及び生活場の汚染状況を知るために、福島を含む全国に約100か所の市民放射能測定所が開設された。その中の31か所(2019年3月末現在)が参加して、自主開発した基準玄米による精度管理をしつつ、測定結果を同一のフォーマットで入力した検索サイト「みんなのデータサイト(以下、MDS)」を構築・運営している。演者は「市民放射能測定センター(通称、C-ラボ)」に参加しているのので、8年目のC-ラボの活動とMDSが出版した汚染アトラス(地図帳)について報告する。

2. 様々な取り組みにおける放射性Cs測定(調査)と結果

C-ラボ測定器:日立アロカメディカル社CAN-OSP-NaI(2インチ×2インチ、38mm鉛遮蔽体は廃鉛等で補強)

- 1) 依頼検査:被災地支援等は無料で実施
- 2) サイエンスカフェ・親子放射能教室実施の他、以下に取り組む。
- 3) 市場調査: C-ラボの測定結果からも、MDSのデータベースからも、食品での検出は、米麦豆類・果実類・山野草・きのこ・野生鳥獣肉に絞られてきている。今回は、自主調査対象として、サツマイモを原料とするホシ芋についての市場調査を実施した。取り組みが季節的に干しイモが入手しにくい時期であったこと、かつ購入費用も高かったことなどから、試料採取は6件のみで全て茨城県産であった。測定ボランティアさんがスーパー等で約500g購入し、1Lマリネリに500mL(効率校正済み)まで詰めて2400-2880分測定。結果、放射性Csの検出率は50%(3/6)で、検出値の平均値はCs-137 1.2 Bq/kg(0.9-1.5 Bq/kg)であった。
- 4) 避難者訴訟支援の土壌測定や空間線量率測定: 避難者訴訟の証拠資料としての土壌測定や空間線量率測定の無料測定も実施している。調査地域は主に南相馬市内であった。土壌は、表層から5cmの深さまでの土壌を四角い弁当箱状に採取して測定した。空間線量率は日本遮蔽技研製GPS付きホットスポットファインダーにて地上1m高で計測し、要所は5cm高でも計測した。測定結果を地図上にプロットして紹介する。

3. 東北支援(援農と放射能監視)における放射能測定と結果

実施期間: 2011年9月開始、その後は毎年6月の2週間。場所: 福島県郡山市の有機農業家内。調査項目(測定器)と結果: 空間線量率(ALOKA TCS-172)は、7年目の放射性Csの自然減衰分を考慮後前年よりも上昇傾向にあった所は、1m高で29%(34/116)、5cm高で43%(46/108)で、除染後の降下傾向が雨水や汚染した土壌・粉じんの溜まりやすい場所では上昇傾向に転じる傾向があった。今後も注意が必要である。ワラビ・フキなどへの放射性Csの移行調査にも言及する。

4. MDS 東日本土壌ベクレル測定プロジェクトの成果をマップ集に!

2014年から2017年3月末にかけて取り組んだPJの結果を、右図のようなマップ集として出版した。測定室毎の精度管理や測定器の性能を補完するCs-134/Cs-137比補正などを実施して測定値の精度を確保し、放射性プルームの動きなどの検討結果も盛り込んだ。

5. 最後に

市民放射能測定所は、市民自らが“測る”市民科学の実践の場でもある。専門家との協働も含めて活動の継続が望まれる。

*Nagoya University Graduate School of Medicine

